



子供たちによる植樹の様子（東北森林管理局）

6 その他国有林野の管理経営

6 その他国有林野の管理経営

(1) 人材の育成

国有林野事業では、「国民の森林^{もり}」の管理経営にふさわしい人材を育成するため、森林・林業に関する専門的な知識や技術等について、森林技術総合研修所や各森林管理局が連携を図りながら、研修を行っています。

平成22年度には、低コストで効率的な伐採・搬出や資源を有効活用するための採材など適切な収穫業務や、木材の生産・流通・加工に関する実践的な知識及び技術を習得させるための研修などを実施するとともに、引き続き民間派遣研修、OJT^{注)}、民有林行政等との人事交流にも取り組みました。

事例 職員を対象とした研修の実施

国有林野を適切かつ効率的に管理経営するためには、収穫業務や木材の生産・流通・加工に関する実践的な知識や技術が必要不可欠です。

森林技術総合研修所では、伐採・搬出等の指導・監督に携わる職員等を対象に本所での講義と林業機械化センター（群馬県沼田市）での現地実習を組み合わせた実践的な研修を実施しました。研修の実施方法については、基礎研修、実務研修、フォローアップ研修を分けて行うことで、研修内容を現場で確認・実践、疑問点等を次の研修に持ち寄って理解を深めるといった、より現場実践型の知識・技術の習得ができるように工夫したものとしています。

（森林技術総合研修所）



場 所：群馬県沼田市 ねり 根利国有林、福島県東白川郡塙町 ひがししらかわぐんはなわまち
 説 明：写真は、バックホウによる作業路の作設体験（左上）と、ハーベスタによる造材操作（右上）、林内作業車の安全な走行体験（左下）と、民間の木材加工業者の見学（右下）の様子です。

(2) 林業技術の開発普及

各森林管理局では、森林技術センターを中心に、地域の特性に応じた林業技術の開発に取り組んでいます。取組成果については国有林野の管理経営に活かすとともに、現地検討会等を通じて地域の林業関係者等への普及にも努めています。

平成22年度は、生物多様性の保全のための森林管理技術の開発をはじめ、植栽や間伐等の低コスト化の取組等、101の技術開発課題に取り組みました。こうした技術開発は、研究機関や大学等とも連携しながら進めています。

表－29 技術開発の事例 (平成22年度)

技術開発課題	内 容
天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発 (北海道森林管理局)	天然林の更新補助作業において、これまでの大規模な地がきでは、先駆性の陽樹を中心とした特定の樹種に偏る傾向にあることから、初期段階から多様な樹種で構成された混交林へと誘導する方法を開発する。
溪畔林再生のための施業技術の確立 (関東森林管理局)	溪畔に存する人工林について、生物多様性の保全の観点から、立地条件に応じた天然林に効果的かつ着実に誘導していくための伐採や除伐の具体的な方法を開発する。
列状間伐施業における林況変化と経営的評価試験 (近畿中国森林管理局)	高性能林業機械による間伐を推進するため、列状間伐の実施による林況変化とその分析等による経営的評価を行い、間伐に係る技術の普及を図る。
長期育成循環施業に資する作業路作設手法の確立 (四国森林管理局)	伐採・搬出作業を考慮した作業路線形の設計方法や耐久性の高い木製工作物を設置した作業路作設手法を開発する。
ニホンジカの効果的・効率的捕獲手法等の開発・実証 (九州森林管理局)	シカの個体数調整のため、シカの習性・嗜好性、行動パターンを把握した上で、科学的かつ効果的・効率的な捕獲方法(捕獲柵、広域誘導捕獲柵)、行動規制柵等を開発する。

事例 民有林と国有林が合同で行う森林施業技術検討会の実施

網走南部森林管理署と網走中部森林管理署では、北海道オホーツク総合振興局等と合同で、森林施業の検証や意見交換等の森林施業技術検討会を開催しています。民有林・国有林それぞれの森林施業技術の向上と流域管理の一層の推進が期待されます。

(北海道森林管理局 網走南部森林管理署ほか)



場 所：北海道しやりぐんしやりちよう斜里郡斜里町 いわおべつ岩尾別国有林
 説 明：写真は、カシワ林の防鹿柵設置箇所で開催している様子です。

(3) 地域振興への寄与

国有林野事業は、計画的な木材の供給（87ページ参照）、事業の民間委託を通じた事業体の育成や就労の場の提供（105ページ参照）、国有林野の貸付けや売払い（95ページ、97ページ参照）、森林空間の総合利用（99ページ参照）、分収林制度の活用（43ページ参照）、民有林との連携による流域管理システムの推進（27ページ参照）等を通じて、地域産業の振興、地域の活性化、住民の福祉の向上等に貢献しています。

さらに、東日本大震災への対応として、関係機関とも連携して、不通となった県道の迂回路としての国有林林道の活用、被災地への食料等支援物資の搬送支援、仮設住宅用杭丸太の安定供給、大型どこのう設置による高潮対策としての緊急工事の着手、県担当者とともにヘリコプターによる山地の崩壊状況の調査などを行い、地域の復旧・復興に努めています。（トピックス7ページから10ページまで参照）

(4) 労使協力の推進

「国民の^{もり}森林」の実現に向けて、公益的機能重視の管理経営を推進していく中で、労働組合との共通の認識の醸成に努め、相互理解と信頼に基づき、改革を推進するよう努めています。

事例 地域と一体となった森林環境教育等への支援

西表森林環境保全ふれあいセンターでは、西表島の住民の皆さんに、自然の豊かさ、生物の多様性を学んでいただく機会として、森林環境教育などを行っています。

平成22年度は地元の中学校が行う西表島の登山にセンターの職員と学校と地域が一体となって取り組みました。生徒のみならず教職員、父母等も西表島の生物の多様性を実感することができました。

(九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター)



場 所：沖繩県八重山郡竹富町 西表 国有林ほか
や え やまぐんたけとみちよう いりおもて
 説 明：写真は、西表島のユツンの滝（左）、マリユドゥの滝（右上）と、
 地元の中学生の登山途中の沢渡り（右下）の様子です。